

オンラインフォーラムを使った アートマイル国際協働学習

塩飽隆子 一般財団法人ジャパンアートマイル（JAM） 理事長

美術教育でこれからの時代を「生きる力」が育っているか？

教育の目的は、「生きる力」を育てることだ。美術教育は子どもたちにこれからの時代を生き抜く力を付けるために「対話的、協働的な学び」を実現しているだろうか？

これからの時代を生きていく子どもたちには、世界の人々と対話して知恵を出し合い、協働して問題を解決する力、新しい価値を生み出す力が求められる。世界が重層的につながり、一つの国で起きたことが瞬く間に世界全体に広がっていく時代に、私たちはどんな問題も日本の中だけで解決することはできないし、日本の中だけを見ていては世界から取り残される。

美術の授業で、世界の問題を自分事として捉え、自分が社会を変える、世界の人々と世界を変える主体だと考え、行動するような人を育てているだろうか？

オンライン授業導入の危うさ

今、授業で、世界とつながることは容易に

なっている。日本は世界の中でICT教育が遅れている国だが、それでもコロナ禍をきっかけにオンライン授業が広がろうとしている。海外の多くの国ではこれまでに学校でオンライン授業を取り入れていたため、コロナ禍で学校が休校になっても直ぐに自宅でのオンラインに切り替えて授業を継続している。今後日本でオンライン授業を進めるとき、単に対面授業の置き換えでは意味がないと思う。オンラインが対話的、協働的な学びを行う手立てとなり、新しい価値を生み出すことに使われなければ、単に道具を導入しただけで終わる危うさがある。

**海外校とオンラインで学び合う
アートマイル**

「アートマイル国際協働学習プロジェクト」（通称アートマイル）は、日本の学校と海外の学校がインターネットでつながって、「教育」「平等」「環境」など世界共通の課題について学び合い、学習の成果として一枚の壁画（15m×36m）を共同制作する国際協働学習

プログラムである。

国境を越え、時差を超えた学び合いを支えるのが、ジャパンアートマイル（JAM）がインターネット上に開設するアートマイル専用のオンラインフォーラムである。14年前にプロジェクトをスタートした時から、日本の子どもたちは世界の子どもたちとオンラインで、対話的、協働的に学習を行ってきた。

2019年度はオリンピックを見据えて、ユネスコ、外務省、文部科学省、独立行政法人国際協力機構（JICA）の協力を得て全世界に参加を呼びかけた。プロジェクトはさらに世界に拡がり、これまでに103の国・地域から5万6千人を超える児童生徒が参加して、942枚の壁画を完成させている。

**「オンラインフォーラム」が世界にできた
もう一つの教室**

アートマイルでは一緒に学習する相手がある。世界の遠く離れた所にいる子どもたちだ。ザッと雨が降るとトタン屋根に当たる雨の音で先生の声が聞こえなくなるため授業が休

みになるアフリカの地方に住む子どもたち、日本の生徒はテロや紛争が起きる怖い国だと思っているけれど実は親日的で「わたしはアニメオタクです」とアニメで覚えた日本語を上手に話す西アジアの子どもたち、その子どもたちと実際に会うことはできないが、インターネットでつながれば、まるで世界にできたもう一つの教室のクラスメイトのように一緒に学ぶことができる。

この「世界のもう一つの教室」で子どもたちは世界で起きていることをリアルに知り、世界の同世代と課題を共有して学び合う。

世界の仲間と「対話的、協働的な学び」

国際協働学習は5つの段階を追って進む。

①【出会い】自己紹介をしてお互いを知る。
②【共有】世界共通の課題について調べたことを共有して議論する。

③【融合】双方の想いを合わせて世界に発信するメッセージをつくる。

④【創造】メッセージを絵に込めて一枚の壁画を共同制作する。

⑤【評価】活動全体を振り返り、アートマイルを通して自分がどう変わったかを見つけて自己評価をする。

世界の仲間との協働学習は対話的に進められる。自分たちが調べたことや考えたことをフォーラムにアップすれば、相手がそれに対して感想や質問を返してくれる。さらにその質問に答え、意見を返すことで、対話的に学習が進んでいく。

壁画制作では、どういう構図、デザインに



日本の学校でSDGsについて学習



ジンバブエ共和国(アフリカ)の学校とスカイプで自己紹介

するのか、どちら側がどの部分を描くのか、お互いにアイデアを出し合って決める。時にはスカイプやZoomで顔を合わせて相談することもある。下絵ができたら日本側が先に半分を描いて相手に送り、相手側が後の半分を描いて壁画を完成させる。こうして文化背景が異なる相手との協働学習の成果として、世界に訴えるメッセージが込められた作品が生まれる。

これからの美術教育

これからの美術教育は従来の感性や想像力を働かせて表現する力を育てることにとらわれず、自分の頭で考え、多様な考えを持つ人々と協働して「新たな価値を生み出す人」「時代を創る人」を育てる教育になっていくべきだ。美術教育が社会を変える力になって欲しい。

（しわく・あつこ）



インドで日本の壁画の続きを制作